

令和元年 8 月 29 日

T I C A D 7 全体会合 3 官民ビジネス対話 安倍総理スピーチ

皆様、御参集いただきまして、ありがとうございます。

ナイロビでの T I C A D V I（第 6 回アフリカ開発会議）から 3 年で、最大の進歩は、アフリカビジネス協議会の発足です。

T I C A D は、生まれ変わりました。私たちの New T I C A D は、ダブル E ダブル I、すなわちアントレプレナーシップとエンタープライズ、インベストメントとイノベーションを高めへ持ち上げます。

タンザニアの、電気のない家々が、夜の灯を手に入れつつあります。この国に何千とある小店舗、キオスクに行くと、ソーラーランタンを借り出せます。昼間貯めた電気で灯る L E D の灯りは明るくて、煤煙（ばいじん）を出すケロシンランプと大違いです。

1, 1 0 0 を超えるタンザニアのキオスクでソーラーランタンのレンタルを実施し、連日、数万人が借りにくるまでに育てた会社。それが東京の W A S S H A です。創業 C E O は、この方、秋田智司さんです。秋田さん、いらっしゃいますか。秋田さんに着目したのが、日本で有数のユーティリティ会社、関西電力です。京都や大阪の、発電とグリッドを賄う巨大企業が、今度 W A S S H A と組みます。関電は W A S S H A に、大量のランタンを提供し、W A S S H A はそれを配って、ランタン・レンタルを手がけるキオスクを 1 万店に増やします。関電には、レンタル料の一部が還流するモデルです。夜が明るくなって、本が読めると喜ぶ子供たちの笑顔を想像しましょう。1 0 万単位のユーザーと、1 万店舗のアウトレットは、ビッグデータを生み、それがまた未知のビジネスを生んでいくでしょう。

秋田さんのような起業家に腕を振るってもらうため、政府は何をすべきか。日本政府が問うこの問いは、この一点に集約されます。

ひとつには、人づくり。また、質の高いインフラの提供。そして資金を手に入れやすくすることでしょう。

J O G M E C（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）、貿易保険の N E X I、それに J I C A（国際協力機構）も、現地の力を借りながら、使い勝手のいいファイナンスを提供します。相手国が借金漬けになっては、皆様の進出を妨げます。重点国を毎年 1 0 か国選び、向こう 3 年の延べ 3 0 か国の担当者に公的債務やリスク管理の研修をします。

ガーナとザンビアには、債務管理とマクロ経済運営のアドバイザーを送ります。

アフリカにとって重要な農業の競争力をつけるにも、日本政府の出番はあります。

日本の地方自治体で活躍した農業専門家には、アフリカのためならと、腕を撫（ぶ）す人が少なくありません。そんな方々に、これから現地へ行っていただきます。

2030年までに、各国と協力しつつ、アフリカ全土における米の生産量を今の倍、5,600万トンにしたいと思います。

私には、3回目のTICADです。皆様が主役となった様子を見て、勇気づけられました。

アフリカには、仕事のしやすさで、世界有数の地位に躍り出た国がありますし、市場規模は拡大の一途。大陸全土が巨大経済圏になる日が見えています。

AU（アフリカ連合）には、野心に満ちた長期計画があります。目標年は2063年。今、20歳代の方には、御自身の目標にできる未来です。

さあアフリカへ、可能性の大地へ、皆様の勇躍を強く念じてやみません。ありがとうございました。